

低温時の専用活力剤

冬の活緑

(姉妹品 夏の活緑)

1Kg×12
1Kg×20

冬の芝草は、色落ちし、生育が悪くなります。原因是、気温の低下と日照力の低下です。気温が8°C~5°Cに下がってくると硝酸態窒素もアンモニア態窒素も極端に吸収が悪くなります。加えて光合成の能力が低下してきます。[光合成に関するRuBPカルボキシラーゼ(C3型酵素)、PEPカルボキシラーゼ(C4型酵素)の活動域外となり、光合成産物よりも呼吸による消費の方が大きくなり、蓄積糖分が消費されて行きます。

光合成の低下によって、芝草の生体に最も重要な「蛋白質」の欠乏も生じてきます。蛋白質は、「アミノ酸」の様々なペプチド結合によって出来ています。このアミノ酸は、根で吸収した窒素化合物と光合成で得た有機酸から合成されます。光合成の低下により、有機酸(α -ケト・グルタル酸etc.)や各種アミノ酸(グルタミン酸、アスパラギン酸etc.)などの不足がおこります。[低温化で硝酸トランスポーター、アンモニアトランスポーターの能動性が低下するわけではないが、硝酸還元酵素(NR)、亜硝酸還元酵素(NiR)の活動域外となる為と考えられます。] 芝草にとっては、亜硝酸還元酵素(NiR)の失活は亜硝酸の体内蓄積を招き低温障害をもたらす原因となります。

一方、光化学系で励起された色素からの電子の放出(物理反応)は、あまり低下しません。この結果、余った電子は酸素を還元し「活性酸素」を発生させます。冬の低温障害は、この「活性酸素」によるところが大きいと思われます。活性酸素を除去するには「抗酸化物」「活性酸素の消去系酵素」があります。

以上、冬期芝草の不足を考慮して、「吸収の良い」「転換しやすい」「障害をもたらす物質を生じさせない」資材を外生的に補うことにより、クオリティの高いグリーンの維持が可能になります。

**冬専用の活力剤です。日照不足、低温、乾燥に！
草勢の回復、擦切れ、色出しに最適です。
春のスタートを良くします。**

成 分

冬の活緑剤です。

耐冬性を高めるアミノ酸成分

耐 冬 性 ア ミ ノ 酸	グリシン	グリシンベタインなどとなり耐冬性を高める
	トリプトファン	発根促進のオーキシンのスタート原料
	メチオニン	鉄との錯体を形成するムギネ酸のスタート原料
	アルギニン	チッソを多く含み、耐冬性を高める
	アスパラギン酸	アンモニアと反応してアミド化合物である耐冬性、アスパラギンとグルタミンを作り出す。
	グルタミン酸	
	バリン	耐冬性を高める。

細胞内液の不凍性を高める糖成分

トレハロース、オリゴ糖、グルコース、シュークロスetc.

ミネラル成分

カリウム、カルシウム、鉄、銅、亜鉛、マンガン、マグネシウム、イオウ、ナトリウム、コバルト、ヨウ素、バナジウムetc.

その他

リボ核酸

使用方法

1m²あたり1g～2g、水に溶かして使用して下さい。(1Kgで500m²～1000m²に使えます。)

1月に1回～2回の葉面散布をして下さい。

多くの殺虫剤、殺菌剤との混用が可能です。(但し、強アルカリ剤との混用は避けて下さい。)

お問合せ先・販売店

バイオビジネス
普及会